

総合振興計画プロジェクト振り返りシート

1 プロジェクトの全体像

①プロジェクト名	むうるほうらしゃプロジェクト		
②担当課・局	土木課	③担当者名	平山 烈士
④プロジェクトの内容	自転車レーンの設置等、自転車を利用しやすい交通環境づくりを行い、自転車の活用を推進することで、町民の健康増進を図るとともに、車から自転車への移動手段の移行による環境負荷の低減を図る。また、観光客の移動手段の選択肢を増やし、心豊かな空間と時間を創出します。そして新たなサービスの創出や暮らしを豊かにするための施策を実施します。		
⑤プロジェクトの目的	自転車レーンを設置することで自転車を利用しやすい交通環境を作る。自転車の利用を促し、町民の健康増進や環境負荷の低減を図る。また、町民や観光者が自転車を利用することにより心豊かな空間と時間が創出していく。		
⑥目的達成により実現する「まちの未来」	自転車を利用しやすい環境ができる。自転車専門の観光客の誘致に繋がる。体力向上や健康増進が図られ医療費削減効果も出てくる。自転車を活用したイベント等により町民の趣味や楽しみが広がる。		

2 プロジェクトの成果等と要因の分析

①目的達成に向け実施した事業等
・イベントの開催（サイクリング、坂道チャンピオンシップ、BMXスクール等）
・電動アシスト自転車購入助成（R4:50台、R5:6台、R6:2台）
・レンタサイクル利用促進商品券配布（R5:164枚、R6:218枚）
・その他（ヘルメット購入助成、レンタサイクル事業者支援、チャリおこし協力隊採用等）
②達成状況
イベントは多くの開催は出来ていない。開催したイベントも参加者が少なかった。各種助成事業は、予算計上額に対して実績は少ない結果となっている。レンタサイクル利用促進商品券事業は、観光者の利用が顕著で利用者にも好評である。交通環境整備はR7以降の実施予定。
③②の状況となった要因等
イベントの集客については、ニーズ把握や他イベントとの調整が必要であった。助成事業は周知不足等で町民に浸透していないところもある。また、自転車は高価で購入が進んでいない。自転車観光が定着しつつあることから商品券配布は一定の効果があると思われる。交通環境整備は、整備について計画を定めR7以降より順次開始していくこととした。

3 プロジェクトの振り返り総括と今後の方向性

①プロジェクトの全体的な振り返り総括
これまでの5年間は自転車を利用するきっかけづくりに特化した活動を実施してきた。助成事業は種々取り組んできたが一定の効果はあったと考える。利用の仕方や目的は個々様々であるのでイベントのニーズは幅広いと感じた。町民が自転車を利用することによるメリットが作れていないので今後の課題と考える。自転車を利用する観光者は増加傾向にあることから、サービスの提供は観光振興に繋がっていくと思われる。
②今後の方向性
これから5年間はこれまでの取り組み（イベントや助成事業）を精査し見直した上で、取り組みを継続実施していきたい。関係団体とも連携し、ニーズを把握し、新たな取り組みにもチャレンジしていく。自転車利用環境の向上を図り、多くの皆さんに利便的に利用できるよう努める。自転車を利用した観光者が増えていることから、観光者向けの施策も検討し、取り組みを拡大させていきたい。
③目的達成に向け連携が必要な課・団体等
企画課、教育委員会、沖永良部自転車走好会

総合振興計画プロジェクト振り返りシート

1 プロジェクトの全体像

①プロジェクト名	みじらしやエリアプロジェクト		
②担当課・局	保健福祉課	③担当者名	朝戸 浩一
④プロジェクトの内容	役場周辺の空き家・空き店舗を活用し、和泊中心部から離れた場所に住む高齢者で希望する方が、安心して暮らせるエリアをつくるプロジェクト。移住後、空いた家はファミリー世代やH・Iターン者に貸し出し、その家賃収入で希望者が入居できる仕組み。エリアの様々な人たちと交流しながら生活を送ることができ、また、近くに集まることで医療・介護といった様々なサービスの効率化を図ります。		
⑤プロジェクトの目的	一人暮らし高齢者等への支援や空き家の有効活用		
⑥目的達成により実現する「まちの未来」	高齢者のまちなか移住による、まちと集落のにぎわい創出		

2 プロジェクトの成果等と要因の分析

①目的達成に向け実施した事業等
R2度…ニーズ調査、先行事例調査、プロジェクトのコンセプト・構想の立案等
R3度…推進協議会の設置、試験事業の家屋、事業者の選定等
R4度…（未実施）試験事業の実施及び検証、自立化のための関係者間調整、運営体制の構築
②達成状況
令和4年度、予算の確保などの関係から、家屋の購入及び耐震化改修を実施できず、プロジェクトの継続が困難となった。代替的な取組みとして、住宅確保要配慮者への支援のため、居住支援協議会の設置に向け協議を進めている。
③②の状況となった要因等
試験事業の対象家屋について改修費用が当初の想定より多額を要し、また、ニーズ調査でエリアへの移住希望者数は把握していたが、実際に取組もうとしていたシェアハウスへの移住希望者までは把握しておらず、ニーズが不透明であったため。

3 プロジェクトの振り返り総括と今後の方向性

①プロジェクトの全体的な振り返り総括
ニーズ、事業収益や将来的な運営形態等不明確な状況で進めたことが、プロジェクトの継続が困難となった要因と考える。
②今後の方向性
関係課・団体が取組んでいる居住支援について連携・役割分担を行い、居住支援協議会を設置し、住宅確保要配慮者支援や空き家の活用を進めて行く。

③目的達成に向け連携が必要な課・団体等

企画課、土木課、シルバーパートナーズセンター、町社会福祉協議会、不動産関係者、空き家所有者、建築関係者、介護・福祉事業者、沖洲会
--

総合振興計画プロジェクト振り返りシート

1 プロジェクトの全体像

①プロジェクト名	まちゅんどプロジェクト		
②担当課・局	企画課	③担当者名	有馬　來夢
④プロジェクトの内容	子どもたちが、島に居住している間に、島の歴史、文化、自然、特徴、魅力に触れる「郷土学」と、島にある仕事や島に必要な仕事を知る「職業学」について学びます。		
⑤プロジェクトの目的	この学びを通じて未来を担うための「人づくり」と、島を離れても継続的に島とのつながりを持つ「つながりづくり」、島に戻ってきたくなる「環境づくり」を行うことによって、若者が島に帰ってくる環境を構築します。		
⑥目的達成により実現する「まちの未来」	「郷土学」を学ぶことで、島に愛着を持つ子どもが増えます。 進学や就職などで島を離れた若者が島とのつながりを維持することで、郷土愛が育まれ、帰りたくなる場所として心の中に生き続けます。 Uターン者・移住者が増え、多様な経験、知識、アイデアが島に持ち込まれ、新たな事業、産業が生まれることで、地域経済の活性化が期待されます。		

2 プロジェクトの成果等と要因の分析

① 目的達成に向け実施した事業等

地域おこし協力隊（しま知るプランナー）の方による企画・実施。R3年度は2回、R5年度は3回、R6年度は4回の実施となりました。
R6年度は関西圏でのポテトフェス（若者ミーティング）・沖永良部島ファン感謝祭の実施。

②達成状況

まちゅんどプロジェクトイベント参加人数は、R3年度が38名の参加、R5年度が62名の参加、R6年度が48名の参加であった。
R6年度に関西圏で開催した若者向けイベントは11名の参加であった。沖永良部島ファン感謝祭は総勢100名の参加があった。
島の子供たちが、積極的にイベントに参加してくれることが増え、少しづつ島に愛着を持ってきているのではないかと感じる。現在、島外で生活している若者が沖州会へ参加し、つながりを作っている。
一方でUターン者の数は、こちらで把握している人数はR2年度以前の5年間からR2年度以降の5年間で前者の2/3程度まで減少している。

③②の状況となった要因等

地域おこし協力隊の方が子供たちの興味をひく様々な企画を考え、しっかりと子供たちの学びになるような学習の要素も入れながらイベントを実施している。
一般社団法人シマスキーの活動により、島の特産品の物産展等への若者の協力参加が増えた。
5年間、小・中学生への取り組みが多く、現在では成果が見えていない。

3 プロジェクトの振り返り総括と今後の方向性

①プロジェクトの全体的な振り返り総括

R6年度は、みちくさアート、漁業体験、虫取りワークショップ、謎解きラリーの計4回の開催で、こども達の興味を引き出す内容もあり応募が多数のものについては抽選による参加者の決定も行った。ただし、参加者の固定化が見られるためそこに対しては子供の興味だけでなく親への呼びかけに関して検討が必要。
島のことについて考える若者が一定数いることで、島外イベントへの協力も各地方の若者が駆けつけてくれる状況ができている。

②今後の方向性

地域おこし協力隊（しま知るプランナー）の方が卒業した後、今まで通りのイベントの維持について検討が必要。
参加者増加やイベントの内容に関して、検討を進めていく。

③目的達成に向け連携が必要な課・団体等

教育委員会、経済課、各小・中学校、JAあまみ農協、観光協会、一般社団法人シマスキー、各地方の沖州会

総合振興計画プロジェクト振り返りシート

1 プロジェクトの全体像

①プロジェクト名	むうーるし、ふでいらさープロジェクト		
②担当課・局	こども未来課	③担当者名	福永
④プロジェクトの内容	子育てに関するセミナーの開催や、父親を対象とした料理教室、小中学生による子育て応援隊活動の実施		
⑤プロジェクトの目的	子育て世代、若い世代（プレパパ、プレママ、小・中学生）の「子育て力」の強化		
⑥目的達成により実現する「まちの未来」	子育てに関わる皆さんの意識改革や安心で安全な子育て環境を向上させることで、こども達の明るい未来を拓く町		

2 プロジェクトの成果等と要因の分析

① 目的達成に向け実施した事業等
・パパとプレパパの料理教室
・夏休み子育て応援隊活動（子育て世帯に小中学生を派遣し、乳幼児と触れ合う）
・くわーむい力セミナー（こどもの成長発達について学び、子育て力を高める）
②達成状況
・パパとプレパパの料理教室 実施 4回 参加者 130人
・夏休み子育て応援隊活動 実施 1回 参加家庭 2件 応援隊 2人
・くわーむい力セミナー 実施 5回 参加者 216人
③②の状況となった要因等
料理教室やセミナーは、対象者が参加しやすい曜日や時間帯を設定し実施した。 子育て応援隊活動は、生徒の参加促進について学校への事業の趣旨説明及び協力依頼を行ったが部活動の遠征等と重なり、調整がうまくいかなかった。

3 プロジェクトの振り返り総括と今後の方向性

①プロジェクトの全体的な振り返り総括
年間を通して、各世代に対する育児力強化に向けた取組みが実施できた。
②今後の方向性
継続的な実施により、地域全体で子育てに関わる人材の増加と、育児力の強化を図る。 みでいろいろプロジェクト、あたらむーープロジェクトと連携し、土作りや地産野菜を使った料理教室を開催する。
③目的達成に向け連携が必要な課・団体等
各こども園、町民支援課、経済課、教育委員会、保健センター、長寿会 地域女性連絡協議会、ファミリーサポートセンター・ソーター、NPO法人

総合振興計画プロジェクト振り返りシート

1 プロジェクトの全体像

①プロジェクト名	みへでいろプロジェクト		
②担当課・局	経済課	③担当者名	名越 美希
④プロジェクトの内容	島の自然の恵みに感謝しながら資源を有効に活用し、農林水産業の活性化を図り次世代へつなぐ生業へと進化させる		
⑤プロジェクトの目的	地域資源をフル活用し安定した仕事をつくる		
⑥目的達成により実現する「まちの未来」	家庭菜園の普及、販売ルートの開拓、野菜を持ち寄る集いの場の創出、地産地消による島内自給率の向上を図りながら台風等による物資不足時に食料を確保できる、災害にも強いまちづくり		

2 プロジェクトの成果等と要因の分析

① 目的達成に向け実施した事業等
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象にした農業体験 ・こども園での食育活動 ・学校給食での地産地消活動 ・わどまりー坪農園 ・えらぶ島もの軽トラマルシェ
②達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象にした農業体験 実施0回 参加者0人 ・こども園での食育活動 和泊幼稚園で毎年実施 (H30~) ・学校給食での地産地消活動 毎年実施 シルバー人材センター (R3人參提供)、実験農場 (毎年玉ねぎ、白菜等提供) ・わどまりー坪農園 実施 1回 (R4) 参加者 3団体、個人 4人 ・えらぶ島もの軽トラマルシェ 実施 2回 (R2, R3) 参加者 1,464人
③②の状況となった要因等
<ul style="list-style-type: none"> ・実験農場でとれた野菜を学校給食で提供し地産地消に努めた ・小学生を対象にした農業体験を企画し募集したが、参加者が無く実施できなかった ・環境にやさしい農業の取組み支援として、一坪農園を計画・実施した ・コロナ禍により活動が制限された状況であった為、農業祭の代わりとして軽トラマルシェを計画・実施した。

3 プロジェクトの振り返り総括と今後の方向性

①プロジェクトの全体的な振り返り総括
コロナ禍であったが概ね実施でき、農業に触れる良いきっかけとなった
②今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを含めた幅広い年齢層に農業のきっかけを提供し、農業の従事者不足解消へ繋げていきたい ・環境保全型農業推進事業と有機栽培推進事業が内容が重複する部分が多い為、今後は一つの事業として取り組んでいきたい
③目的達成に向け連携が必要な課・団体等
農業委員会、技連会、JA、県農業普及課、沖永良部花き専門農協、4HC

総合振興計画プロジェクト振り返りシート

1 プロジェクトの全体像

①プロジェクト名	ようていあしばープロジェクト		
②担当課・局	教育委員会事務局	③担当者名	名越
④プロジェクトの内容	総合交流施設の建設規模・場所、児童・生徒数減少に伴う学校の統廃合の協議等、財政負担軽減のための有効な補助事業の詮索。 「和泊町総合交流施設建設を更に推進する会」において事業手法・トータルコストまで含め協議・検討し建設に向け取り組む。		
⑤プロジェクトの目的	生涯にわたって学べる環境づくりと地域全体で子どもを守り育てる心豊かな環境づくりを推進する。		
⑥目的達成により実現する「まちの未来」	新たに建設する総合交流施設においてスポーツ大会や各種イベントの開催に加え、子どもから高齢者まで様々な世代の市民が気軽に訪れ、集い楽しむ場を目指し交流人口の増加を図る。また有事の際には防災機能を備えた避難場所としての活用を見据えた総合交流施設の建設。		

2 プロジェクトの成果等と要因の分析

① 目的達成に向け実施した事業等
・和泊町総合交流アリーナ(仮称)建設事業 基本構想・基本計画策定業務(R3.10.8) ・和泊町総合交流施設配置平面計画検証及びイメージ図作成業務(R5.7.31) ・和泊町総合交流施設建設事業建設候補地地質調査業務(R6.3.28)
②達成状況
「和泊町総合交流施設建設を更に推進する会」において、建設場所や建設規模、事業手法・トータルコストまで含め議論を重ねてきたが、本町の財政状況等を考慮し計画の中止を決定した。
③②の状況となった要因等
総合交流施設建設の中止については、将来的な財政負担(実質公債費比率)を考慮した結果である。 今後見込まれる老朽化した公共施設やインフラ整備の大規模改修・更新。また、人口減少や少子高齢化など市民生活の向上へ取り組むため。

3 プロジェクトの振り返り総括と今後の方向性

①プロジェクトの全体的な振り返り総括
令和2年8月から「和泊町総合交流アリーナ建設事業推進協議会」を立ち上げ、建設に向け様々な議論を重ねてきた。 令和5年1月には「和泊町総合交流施設建設を更に推進する会」を立ち上げ、基本構想・基本計画を策定し建設に向け取り組んできた。
②今後の方向性
将来的な財政負担を考慮し計画中止。
③目的達成に向け連携が必要な課・団体等

総合振興計画プロジェクト振り返りシート

1 プロジェクトの全体像

①プロジェクト名	あたらむープロジェクト		
②担当課・局	町民支援課	③担当者名	山下 萌々菜
④プロジェクトの内容	ごみの排出抑制、適正処理等に関する周知、啓発、広報		
⑤プロジェクトの目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの排出抑制、適正分別、適正処理 ・ごみの減量化 		
⑥目的達成により実現する「まちの未来」	<ul style="list-style-type: none"> ・町民の意識転換が図られ、ごみの排出抑制、適正分別、適正処理が行われることによる再資源化の促進、循環型社会の構築。 ・ごみの減量化に伴うごみの処理施設の長寿命化及び二酸化炭素排出量の削減。 		

2 プロジェクトの成果等と要因の分析

① 目的達成に向け実施した事業等
家庭用生ごみ処理機等設置費助成
②達成状況
生ごみ処理機助成件数 令和3年度～令和6年度 計237件 燃えるごみ搬入量 事業実施前年度比△164,070kg 【{事業実施前 令和2年度 1,825,640kg} — {令和6年度 1,661,570kg}】
③②の状況となった要因等
広報誌やSSTVの活用で、事業について広く周知したことにより、家庭への生ごみ処理機の設置が増加し、生ごみの排出量削減により、燃えるごみの搬入量削減の一因となった。

3 プロジェクトの振り返り総括と今後の方向性

①プロジェクトの全体的な振り返り総括
・広報誌、SSTV、防災無線等で、町民へのごみの排出抑制、適正処理等に関する周知、啓発を行った。 ・家庭用生ごみ処理機設置費助成を継続。
②今後の方向性
・リサイクル活動の強化 【「あたらむー」=もったいない】をモットーに、3R [(リデュース)減らす・(リユース)繰り返し使う・(リサイクル)再資源化する、再利用]を日常に溶けさせられるようなイベントを行う。フリーマーケットや譲渡会(0円マーケット)の実施。 ・他のプロジェクトと共同でイベント実施。 ・家庭用生ごみ処理機等設置費助成(継続) ・町民一人ひとりの意識改革と同時に、引き続きごみの減量化・分別等の再資源化を図っていく。
③目的達成に向け連携が必要な課・団体等
衛生管理組合・こども未来課・タラソおきのえらぶ・各字関係団体・経済課